

福祉 くろべ

9月

2015

No.114

編集・発行 社会福祉法人黒部市社会福祉協議会 平成27年9月1日発行



特集 「地域を良くするヒントは、おうちのなかにありました。」

子ども
福祉くろべ
付き!

地域の今を届ける密着レポート/JAくろべ女性部愛のおすそわけ
地域のお知らせ/元気づくり事業
連載/ふくしスマイル・ワーカー
etc.

📷 今月の表紙 子ども記者——今年も子どもたちが「子ども福祉くろべ」をつくってくれました



うなづき

[場所] 黒部市宇奈月老人福祉センター

介護予防通所事業 生き生き倶楽部

時間/9:30~15:00

参加無料!

対象/65歳以上の方

※■は休館日



日	月	火	水	木	金	土
30	31	1 レクリ エーション	2	3 レクリ エーション	4 レクリ エーション	5
6	7 季節行事	8 季節行事	9	10 季節行事	11 季節行事	12
13	14 バスハイク	15 バスハイク	16	17 バスハイク	18 バスハイク	19
20	21	22	23	24 健康体操A	25 健康体操B	26
27	28 健康体操C	29 健康体操A	30	1	2	3

時間/10:00~
健康体操A・・・岡崎 明子先生
健康体操B・・・炭田 亮子先生
健康体操C・・・石田 みどり先生

読んで効く



夏バテならぬ秋バテにご注意!

9月に入り、夜は過ごしやすくなってきましたね。でも、まだまだ昼間は暑く寒暖の差が大きくなっているこの季節は、「秋バテ」に注意が必要です!身体がだるい、消化不良、頭痛、風邪等の色々な症状が出ている場合は、免疫力が落ちているサイン!秋バテを放置すると様々な病気につながってしまいます。秋バテ予防に身体を温める食材を積極的にとりましょう。赤身の魚、レバー、玄米、黒ゴマ、ひじき、黒豆等、色の濃いものや黒っぽい食材が効果的です。

お問い合わせは生き生き倶楽部の
担当:山内まで TEL.(0765)65-1820

福祉・ボランティアに関することは

社会福祉法人黒部市社会福祉協議会

http://www.kurobesw.com/

●本所 黒部市福祉センター内
〒938-0022 黒部市金屋464-1
TEL.(0765)54-1082(代表) FAX.(0765)52-2797
TEL.(0765)57-1089(ケアセンター・ホームヘルプセンター)
Eメール kurobesw@ma.mrr.jp

●宇奈月支所(東部包括) 黒部市宇奈月老人福祉センター内
〒938-0862 黒部市宇奈月町浦山2111
TEL.(0765)65-1165 FAX.(0765)65-9533
Eメール tobu-houkatsu@kurobesw.jp

くろべ

[場所] 黒部市福祉センター

介護予防のための 元気はつらつ体操教室

時間/10:00~11:00

参加費/300円(入館料のみ)

対象/65歳以上の方

※■は休館日



日	月	火	水	木	金	土
30	31	1 健康体操B	2 口腔ケア	3 口腔ケア	4	5
6	7	8 健康体操A	9	10	11 体操	12
13	14	15	16 体操	17 体操	18 健康体操B	19
20	21	22	23	24 音楽療法	25 音楽療法	26
27	28	29 音楽療法	30 音楽療法	1	2	3

時間/10:00~
健康体操A・・・岡崎 明子先生
健康体操B・・・銅 幸一郎先生
音楽療法・・・畠山 悦子先生
口腔ケア・・・精田 紀代美先生
体操・・・小森 亜希子先生

編集後記

子ども記者の取材に同行する中で、周りのちょっとした声かけや心遣い、利用しやすいようにと誰かを想う気持ちが、普段の暮らしをしあわせにしていることを改めて感じました。また、子どもたちの素直でまっすぐな視点が新鮮で、新しい刺激に私も少しだけ若返った...ような気がします!

編集 西田

一口メモ



バリアフリー

高齢者や障害者が社会生活を送るうえで、障壁となるものを取り除くこと

ユニバーサルデザイン

障害の有無に関係なく、すべての人が使いやすいように製品・建物・環境などをデザインすること

出典:三省堂大辞林

ちょこっと情報

[黒部市の人口] 41,754人 [65歳以上の人口] 12,358人 高齢化率 29.4%
H27.8.1現在(外国人を除く)

この広報誌は一部共同募金の助成金により発行されています。

特集

地域を良くする ヒントは、 おうちのなか にありました。



何だか地域が今まで以上に注目されています。地方創生という言葉も生まれて、地域に国の未来がかかっているような雰囲気まであります。

遠い世界の話のように見えてしまうこの地域のお話、実はとっても普通のことだったりします。今回の特集では、難しい地域の話をまるで自分の家のことのように思えてしまうぐらいシンプルにしてみました。みなさんもこれを機会にちょっとだけ地域のことを考えてみてはいかがでしょうか。

小さな単位で物事を捉える

黒部市社会福祉協議会では昨年、市全体の地域福祉を推進するため「第2次地域福祉活動計画」(※1)を策定しました。策定にあたり、市内16地区で座談会を開催し、住民の皆さんからお話を聞かせていただく中で、地区それぞれの特徴、人も土地も生活環境も違うなど、地域によって生活課題も異なっていることが見えてきました。

た。そのため、市全体の計画がある一方で、地区単位の自治や福祉の取り組みを推進する必要性を感じています。

※1『地域福祉活動計画』：社会福祉法(第107条)で定められた行政計画である黒部市地域福祉計画を、より具体的な活動や事業として進めていく計画

今回は、小地域(地区)福祉活動がなぜ今必要なのか、そして今年11月に黒部で開かれる「第9回全国校区・小地域福祉活動サミットINくるべ」の狙いについて、このサミットの発起人の一人である日本地域福祉学会副会長で関西学院大学人間福祉学部牧里毎治教授のインタビューを交えて特集します。

地域社会を見つめなおす

黒部社協・小柴(以下、小柴) 様々な福祉施策やサービスが生まれ、地域での人々の暮らしは快適で便利になってきたのでしょうか？
牧里教授(以下、敬称略) 確かに制度やサービスは増えてきました。ただ福祉に限らず、合理性や効率性を追求するその裏側で人のつながりを放り去ってしまった気がします。

例えば、良かれと思って親を病院に入れる。するとしばらく家に介護する相手がいなくなるし、施設に入ればホッとする。専門サービスにつながっているわけだから親不孝ではない、と。だけど何となく割り切れない。自分の親との関わりがそこでだんだん切れていく。

老人ホームや障がい者施設を利用することは、実は家族の一員で

はあるけども、地域の住民であることをやめさせてしまうことなどではないか、という風に考えることができる。するとサービスを提供する側は、一生懸命やればやるほどそこに加担しているわけだから、人々の暮らしを豊かにするということが矛盾を感じる。

じゃあ、そうではない方法ってなんだろうと。できるだけその人が認知症であっても障がい者であっても、住民として接するようになり方ができないだろうか。老人ホームも「地域の老人ホーム」にできるのではないかと、思いから、私自身、地域で30年前からそういった実践に取り組んできました。そして今、地域社会を見つめなおし、一体何でこうなってしまったのかと考える必要があると思っています。

昔は3つの居場所があったんですよ。「家庭」「職場」、そして「地域」という第3の居場所。それは銭湯であったり、井戸端であったり。そこで良くも悪くも近所のことや地域のことを話し合ったりしたんですよ。つまり家族を超えた「住民」としてのつながりがあったのですが、今はそういう場がなくなってきました。私も何度も黒部に来ていますが、地方ではまだ地域のつながりはしっかりしていると感じています。だからこそ、このつながりをどう保っていくかを

考えていく必要があります。しかし、必ずしも昔のようなものをも一度作っていくということではなく、新しい知恵で今の時代にあったものを考えていかなければなりません。

住民が主人公

小柴 私たち社会福祉協議会も「住民主体」という言葉をよく使います。しかし、住民主体と聞くと、住民まかせ、責任をもってください、と言われているように感じる方も多いのではないのでしょうか？

牧里 住民は「主人公」なんです。制度化されたサービスが充実したことで、本当にそのサービスが必要かを考えることが少なくなっていると思うんです。地域でいま何が問題なのかを知ることや、行政がどう税金を使っているのかをふまえて、住民としてやってほしい事業やサービスを並び、意見を伝える。

行政に何をしてくれということでもなければ、企業、商店街がどうだとかではなくて、私たち住民自身が主人公になって、もう一度自分たちの暮らし方、地区単位でのやり方を創り出して、「こう。そうやってみんなが主人公として関心を持つようになると、地域が変わっていくんですよ。」

「福祉のイメージを変える」

牧里 ある地域で、ミカン畑を経営する老夫婦がいて若いときのようになかなか作業出来ずに困っていました。知的障がい者の作業所が出荷用と規格外のミカンを分ける作業を手伝うことになったんです。作業所としても仕事が欲しい、お金をくれとは言わないが、規格外のミカンを受けませんかという提案したのです。

老夫婦にすると、今まで畑の肥やしになっていたミカン。『どうぞ、どうぞ。むしろ賃金を払わなくてはいけないんじゃないですか』と。

その作業所は、規格外のミカンの皮を剥いて100%のジュースをつくったのです。それが飛ぶように売れてね、人気商品となってその販売で現金も入ってくる。



そのお金でドイツから搾汁機を買ったら各地からもっとジューズをつくってほしいと依頼がくるようになって。今や経営難の施設を改修して、レストランを経営していて、そこで障がい者の方の雇用が生まれたりとどんどん広がっています。つまりその活動は、地域の活性化にもなっていますよね。

障がい者の団体から見ると自分たちや子どもが社会につながる場をつくっている。実はそれが地域から見ると私たちの暮らしを便利で豊かなものにしてきているという逆転現象が起きているんです。

小柴 福祉は「弱き者を救う、助ける」というイメージを抱きがちですが、「みんなが、お互いにしあわせになる」という感じがしますね。

牧里 実は自分たちの地域の暮らしの中にいくらでも材料はあります。そして喜びにつながるのは、一人ひとりが住民として位置づけられる居場所や出番、役割があるということなんです。それができるのも校区や小地域という一つの単位の関係性だからこそでもあります。

「これが福祉なの？私の方が助かっているだけ」ということがある。それが「福祉なんですよ！」と言ってあげること。福祉のイメージが変わっていく。本当の福祉というのは人々の暮らしの中に眠っている身近なものなんです。

校区・小地域福祉活動 サミットのねらい

牧里 校区や小地域単位で行われている福祉活動にスポットを当てたこのサミットは、別に偉い人たちが集まって何か決めようというものではないんですよ。住民が主人公となり、先ほど話した新しい第3の居場所や「福祉のイメージを変える」ということについて知り、考えていくための場なんです。黒部市内でも山間部から沿岸部まであるように地域内でも課題の共有は難しいんですよ。でも、全国という単位で見ると同じような人口や環境の地域がある。そこでの取り組みや想像もしないような新しい発想を知り、学ぶことに価値があります。

これはずつとつないでいきたいと思っっているんです。日本に自治体は約1,700ありますからね。

小柴 ということは、毎年1回開催していても1,700年かかりますね(笑)。

牧里 その第9回目黒部なのですよ。いつかは私も、あなたも、皆さんも居なくなります。それでもこのテーマで自分たちの地域を考えていくことを、世代を超えて続けていくという壮大な夢があります。そうすればいつか小地域で物事を捉える概念も浸透していくだろうと考えています。

私たちの想い

私たち社会福祉協議会は、このサミットをただのイベントで終わらせず、小地域の福祉活動に着眼し、ここから言わば活動を活性化させるスタートという位置づけで、その活動を後押しする役割を強化していきたいと考えています。

11月26日、27日に全国からここ黒部へ集まる1,000人の参加者と共に、このサミットの一つの目標である「10年後の未来の地域の姿」を描きます。私たちの暮らしを支える「福祉」は、誰がどのように担うのか。この問いの答えを一緒に考えていきましょう。

〈聞き手〉黒部市社会福祉協議会 小柴徳明



11月のサミットに向けて、準備が進んでいます



日本地域福祉学会副会長
第9回全国校区・小地域福祉活動サミットINくろべ
実行委員会名誉会長
関西学院大学人間福祉学部

まきさと つねじ
牧里 毎治 教授

研究者でありながら、地元の校区の一住民として、また大阪府豊中市の福祉系審議会などの委員として発言し、NPOや商店街などが関わる福祉のまちづくりについて実践と研究を重ねている。

活動レポート 1

「愛のおすそわけ」第4弾

黒部から福島へ美味しい野菜を届けます

J Aくろべ女性部(高本一恵部長)の皆さんが自宅などで採れた夏野菜のきゅうり、ナス、じゃがいも、ニラ、カボチャ、トマトなどを福島県伊達市の子育てサロンや子どもたちの保養プログラムなどを開催している「小国からの笑顔」(団体)へ送りました。

この活動は、会員の家庭菜園などで同時期にたくさん採れて余分にある野菜を少しでも喜んでもらえる方へ「おすそわけ」したいと始まったものです。

小国からの笑顔との交流は、平成26年3月に黒部市で開催された「キラキラキャンプくろべ2014」で子どもたちが保養キャンプに訪れたり、5月には菜の花を福島に贈ったりと現在も続いています。



小国からの笑顔の大波代表は、「震災から4年以上が経ついても、こうやって支援をいただけることに感謝しています。今年も本当にたくさん種類の野菜をいただき、おすそわけをいただきたい皆さんが喜んでます！」と話されました。

活動レポート 2

赤い羽根の募金箱を作ろう教室

世界にひとつだけの募金箱がたくさんできました!

8月10日(月)、黒部市福祉センターで「赤い羽根の募金箱を作ろう教室」を開催しました。

はじめに、赤い羽根共同募金のしくみについての説明、共同募金の助成を受けている団体が地域を良くするためにどのように活かしているかを説明し、募金協力への感謝の気持ちを伝える「ありがとう運動」を行いました。

参加した102名の子どもたちは、それぞれ工夫しながら個性的な募金箱を作っていました。

この素敵な募金箱は、9月下旬頃に黒部市福祉センターでも展示する予定です。みなさんもぜひ見に来てくださいね。



来て見てヤンバイ映画館

開催時間:13:30から 入場無料

9月30日(水) 「ふり袖太平記」
出演:大川 橋蔵 美空 ひばり
場所 音沢公民館

今月の相談日

民生委員児童委員と心配ごと相談
行政相談員と行政相談 **ご予約不要**

黒部市福祉センター 9月 8日(火) 13:30~15:30 (金屋464-1)
黒部市立中央公民館 9月10日(木) 13:30~15:30 (宇奈月町浦山2100-2)

弁護士と法律相談 **予約受付9月1日より**

黒部市福祉センター 9月15日(火) 13:30~15:30

富山県東部生活自立支援センター巡回相談 **予約受付9月1日より**

黒部市福祉センター 9月14日(月) 10:00~11:30

催し物と休館日のご案内

黒部市福祉センター 利用時間/ 8:30~16:30

9月の催し物

5日(土)	魚津カラオケ友好会歌謡ショー	10:30~
12日(日)	こぶしカラオケ愛好会 発表会	10:30~
15日(火)	松の会くろべ 踊り	10:30~
16日(水)	やまびこ会 発表会	10:30~
20日(日)	黒部民謡友の会 民謡と踊り	10:30~
26日(土)	カラオケうた仲間	10:30~
27日(日)	日本海歌謡研究会歌と踊りの祭典	10:30~
29日(火)	ことぶきの会 発表会	10:30~

休館日 毎週月曜日(7日・14日・28日)・祝日(21日~23日)

※9月6日(日)は敬老会開催のため入浴のみの入館となります。

今月のクラブ

囲碁・将棋クラブ 金曜日(4日・11日・18日・25日)25日は秋場所(ミニ大会)
元気カラオケクラブ/健康麻雀クラブ 木曜日(10日・24日)健康麻雀は3日・17日もあり

今月の湯

入浴時間 10:00~16:00

- 9月 1日(火)~ 6日(日) プラチナナノコロイドバス
- 9月 8日(火)~13日(日) トマトの湯
- 9月 15日(火)~20日(日) もぎたてオレンジバス
- 9月 24日(木)~30日(水) 緑茶の湯

誕生日のお祝いに
センターの入浴券はいかがですか?
11枚綴り 3,000円

町内の会合や趣味の集まりに、黒部市福祉センターをご利用ください

第9回 全国校区・小地域福祉活動サミット

開催要綱の完成!
ついにサミットの全容が明らかに

11月26日、27日に開催される「第9回全国校区・小地域福祉活動サミットINくろべ」の開催要綱が完成しました。

開催要綱・内容などの詳細については、黒部市福祉センター窓口にも冊子がございいますが、社協ホームページからもダウンロードできます。またfacebookで「第9回全国校区・小地域福祉活動サミットINくろべ」を検索していただくとリアルタイムでサミットの情報を配信しています!

活動レポート VOL.5

さらけだせ

全国からここ黒部へ集まる1,000人の参加者と共に、このサミットの一つの目標である「10年後の未来の地域の姿」を描きます。私たちの暮らしを支える「福祉」は、誰がどのように担うのか。この問いの答えを一緒に考えていきましょう。

懐かしい顔ぶれと賑やかなひと時を

7月22日(木)ー下立まちおこしセンター


地区の一人暮らしの方や75歳以上の夫婦などを対象にふれあいランチを開催し、新聞エコバッグ作りや体操などの催しごとで盛り上がりました。



ようこそおしゃべりカフェへ

7月16日(木)ー音沢公民館

公民館内でお茶とお菓子をいただきながら、好きな時に気軽におしゃべりが出来る場・憩いの場(おしゃべりカフェ)を開催しました。



ふくしスマイルワーカー

スマイル Vol.21

川田 さおりさん(40)

送迎やレクリエーション、食事・入浴などの介助を行う



何でも話しやすい存在でありたい

「利用者の方々に安心して快適に過ごしていただくことが、当たり前だけど日々の目標ですね」と話される川田さん。利用者の表情や仕草などに目を配り、変化にいち早く気付けるよう心がけておられます。18歳から介護職を経験し、その後一度は離れたものの、33歳の時にもう一度介護の仕事に携わろうと資格取得を目指し、学ぶ中で介護の奥深さと魅力を感じたそうです。

現在は「人生の先輩から学ぶこともたくさんあるんです」と仕事の楽しさも感じておられ、「ここを選んで来てくださる方や『ここが好きだから』という言葉が嬉しくて、利用者の方には本当に感謝しかないですね」と話される穏やかな笑顔に心が温まりました。

趣味の秋

おしらせ

日曜大工

でプランターカバー作り

第1回目 プランターカバーを作ります。

※使い慣れた道具(インパクトドライバー)など、お持ちの方は持参ください。

9月1日より黒部市福祉センターにて受付します。

平成27年 9月11日(金) 10:00~11:30
[集合場所] 黒部市福祉センター正面玄関
[定員] 10名
[参加費] 300円




黒部市社会福祉協議会に
寄付をいただきました。
ありがとうございました。

JAくろべ
カトレアホールやすらぎ様

福祉センターの看板を
ご寄付いただきました

松垣 照人様(生地)



子ども福祉くらべ

9月号

海外から来た人の暮らし




ユニバーサルデザイン

～目次～

- ◎海外から黒部にやって来た!
- ◎ユニバーサルデザイン、って知ってる?
- ◎プロフィール

【編集・発行】 社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会 平成27年9月1日発行




いちい ともか
市井 朋香

わたしは子ども記者をして海外から来た方にインタビューすることができたのでとても楽しかったです。大きなカメラを持つのははじめてでたいへんでした。インタビューはとまどってしまってスムーズにはできませんでした。けど記事を書くのはとても楽しくできたのでよかったです。




しろ みく
城寺 美空

私は、子ども記者をして黒部市に住む色々な人の事がよく分かりました。インタビューでは上手くいきませんでした。でも、分かりやすく教えていただいたのでメモを取る事ができました。



みやた かずほ
宮寺 一穂

最初は、ちがう小学校の子たちと仲良く活動できるかに自己満足だけど、みんなと仲良くなれたのでうれしかったです。ユニバーサルデザイン、バリアフリーについては学校でも少し習ったけれど、ちがいがよく分かりませんでした。でも、取材などをして、とてもくわしく知れたのでよかったです。



やながわ れな
柳川 優奈

私は、子ども記者をして障害者の方と外国出身の方にインタビューをしました。その人がどんな事をしているか、どんな気持ちかを聞き出すことができて嬉しかったです。そして、友達と協力しながら話し合いができて良かったです。小学校の社会見学や取材活動に生かしたいです。

福祉・ボランティアに関することは

社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会

http://www.kurobesw.com/ 〒938-0022 黒部市金屋464-1 TEL.(0765)54-1082(代表) FAX.(0765)52-2797

ユニバーサルデザイン
てなあに?
できるだけ多くの人から使用できるように製品、建物空間をデザインする事です。

ユニバーサルデザインって知ってる?

バリアフリーとのちがい
バリアフリー→高齢者、障害者が使いやすい
ユニバーサルデザイン→多くの人から使いやすい

ユニバーサルデザインってなんだらう?
そう思い、調べてみることにしました。

使っている人と作っている人

お風呂に入る機械



こまている人がいたら助けてあげたい、という気持ちが大セブ



じゃ口がのびて洗いやすい!



後ろからおふしけるか
やわらかく使座

「コクヨ」さんへの質問
Q なぜユニバーサルデザインを取り入れた商品を作ろうと思ったの?
A エ夫と他人を思いやる気持ちを持って文房具を作れば、多くの人から使いやすい商品に進化していくと考えたからです。 KOKUYO

駅にもあった!

黒部 宇奈月 温泉 泉 駅でユニバーサルデザインの物車いす用ボタン



さわるだけでこぼしている案内板



ユニバーサルデザインとバリアフリーのちがいがよく分かりました。公共施設にはユニバーサルデザインが多いということが分かりました。

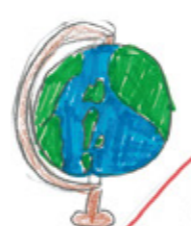


海外から黒部におてきた!

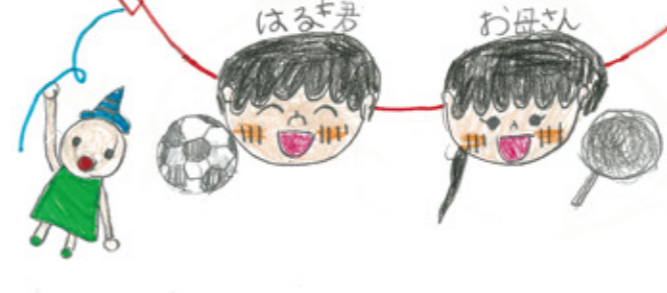
黒部市に住む外国の方は英語の先生位しか知りませんでした。でも、黒部市には400人位の外国の方が住んでいると知りました。だから、どうやら黒部市に安心して住めるのを知りたいと思いました。

取材した長谷川リサさんは、24年前日本に来て1度フリービーンにもどりけっこんするために日本にもどって来ました。リサさんの話で大変そうだなと思ったのは最初の3年間です。リサさんは日本に来たばかりの時は、心細くて帰りたいと思ったそうです。でも、黒部市には400人位の外国の方が住んでいると知りました。だから、どうやら黒部市に安心して住めるのを知りたいと思いました。

保育所のお母さんに色々な事を教えてもらったり、里野菜をもらったりしたそうです。不安な事もあったけど、色々な人に教えてもらった事をとても感じています。



フツシ ぼるき
わたしが提悠輝さんとその母悦子さんにインタビューをして、提さんたちはイギリスに4年間、中国に4年間、それで日本に来たので提さんたちは、ほとしていて安心してこまたことはなかつたけど、イギリスや中国でたくさんこまてしまったそうです。けれどイギリスでは自分がこまているという人から声をかけてくれてとても安心したそうです。たとえ、言葉が伝わらなくても、イギリスの人たちは何か伝えたいんだなと話をわがてくれるそうです。日本でもこまている人がいたら声をかけてくれたらいいと思いました。



まとめ
外国から来た方からお話しを聞いて、さいしょは不安で言葉もつうじなかつたけど、たすけてくれる人がいて安心してこの場所に住めるようになったそうです。だからわたしたちはこまている人がいたらたすけてあげないといけなないと思いましたがみなさんもまわりにこまている人がいたら声をかけてください

A B C D E
F G H I J K

